

## NIKE AIR MAX 1 ULTRA 2.0 LE

■ ナイキ エア マックス 1 ウルトラ 2.0 LE

資料提供: ken\_shining



ミッドソールからエアバックの一部が覗く“ビジブルエアウインドウ”を搭載した、世界初のランニングシューズ“エア マックス1”。ティンカー・ハットフィールドがデザインを手掛けた革新的なプロダクトは、好調なセールスを記録し、ナイキをスポーツシューズのトップカンパニーへと導く原動力となった事実は今さら説明の必要は無いだろう。ヒール部分に搭載されるエアユニットは、ポリウレタンのバッグに窒素ガスを充填したもの。これはNASAが開発した宇宙飛行士のヘルメットを製造する技術に応用している。“エア マックス”登場以前のランニングシューズにもエアユニットは搭載されていたが、それらはミッドソールにエアバッグを埋め込む構造になっていた。ナイキはエアユニットを販売戦略上の武器として活かすため、テクノロジーの特性を活かしたデザインをハットフィールドに求めたのだ。その要望に対し、ハットフィールドは外観がスケルトン構造になっているバリにある総合文化施設「ボンビドゥー・センター」から受けたインスピレーションを基に、“ビジブルエアウインドウ”を考案する。そのアイデアを活かした完成品が“エア マックス1”なのだ。斬新なソールに対して、アッパーはそれまでの製品を受け継いだオーソドックスなデザインを採用している。そのレトロな雰囲気とハイテクディテールを併せ持つルックスが、スニーカーヘッズの物欲を刺激するのだ。現代の“エア マックス1”は、オリジナルディテールを忠実に再現した復刻モデルに加え、現代的にアップデートされたバリエーションの人気も高い。ここで紹介するホワイトとグレー、そしてレッドのオリジナルカラーに彩られた“ULTRA 2.0”は、ヒートボンディング加工や、ヒール部分の一部をくり抜いた史上最も軽量の“エア マックス1”だ。そしてブラックとエレphant柄のコンビネーションに、“ジェイド”ブルーのスワッシュを組み合わせたカラーウェイは、2007年に発売された“atmos”とのコラボレーションモデルを、“AIR MAX DAY”に合わせて復刻した、多くのファンを熱狂させた1足だ。

## NIKE AIR MAX 1 atmos ELEPHANT

■ ナイキ エア マックス 1 アトモス エレphant

資料提供: merci0230

